

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

聖徳大学短期大学部

令和5年3月

## 聖徳大学短期大学部 教職課程認定学科一覧

- ・ 保育科 第一部 幼二種免
- ・ 保育科 第二部 幼二種免
- ・ 専攻科 医療保育専攻 幼一種免
- ・ 通信教育部 保育科 幼二種免

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価	19
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	22
V	現況基礎データ一覧	23

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

#### (1) 大学名：

聖徳大学短期大学部

保育科第一部、保育科第二部、総合文化学科、専攻科医療保育専攻

通信教育部保育科

#### (2) 所在地：千葉県松戸市岩瀬 550

#### (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：(通学) 330名、(通信教育) 359名

教員数：43名(教職担当教員19名)

### 2 特色

東京聖徳学園は、昭和8年4月、東京に聖徳家政学院と新井宿幼稚園を創立したことに始まり、今日まで89年の歴史を刻んでいる。現在、聖徳大学は、教育学部(児童学部)、心理・福祉学部、文学部、人間栄養学部、看護学部、音楽学部、通信教育部教育学部(児童学部)、同心理・福祉学部、同文学部、そして大学院研究科博士前期後期課程として児童学研究科、臨床心理学研究科、言語文化研究科、人間栄養学研究科、音楽文化研究科、児童学研究科(通信教育課程)、修士課程として看護学研究科、そして教職研究科(専門職学位課程)を設置するとともに、児童学研究所、言語文化研究所、生涯学習研究所、看護学研究所、聖徳大学川並弘昭記念図書館、聖徳博物館、保健センター、情報教育センター、アドミッションリサーチオフィス、心理教育相談所、語学教育センター、教職実践センター、聖徳ラーニングデザインセンター、地域連携・社会貢献センター、聖徳大学オープンアカデミー、及び聖徳大学オープンアカデミー音楽研究センターを付設している。また、現在、聖徳大学短期大学部は、保育科第一部、保育科第二部、総合文化学科、専攻科医療保育専攻、通信教育部保育科を設置している。

本学においては建学の精神をふまえ、次のような卒業認定・学位認定の方針(卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー))を掲げ人材の育成に努めている。

「聖徳大学・聖徳大学短期大学部は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である『和』を教育理念としています。本学は、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦するとともに、時代を超えて求められる多様な他者への尊敬と共感を大切に作る人間性を備えた女性を様々な世界に輩出しています。

現代社会は、政治・経済・文化のグローバル化が進み、個人・社会の価値観が多様化・複雑化し、きわめて多くの複合的な問題に直面しています。このような変化の激しい社会において、人間の尊厳を見失わず、自ら新たな問いを立て多様な他者と協働しながら新たな価値を生むための力の育成が求められています。

聖徳大学・聖徳大学短期大学部は、時代をリードする教育改革を進め、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、社会で発揮できる専門性の高い実践力をもつ人を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献しています。」

こうした卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、専門的知識と人間性豊かで実践的な指導力を有する教員を養成するために教職課程を設け、本学の特色である「聖徳教育」「礼法教育」等を通して、総合的な人間力を高める指導を重視した教員養成に取り組んでいる。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

《1-1-①》 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

##### 〔現状説明〕

保育科は保育者養成を目的としており、教職課程の目的・目標は学則に定められた人材育成に関する目的を基に制定された卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げられている。

##### 〔長所・特色〕

教職課程の目的・目標である卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)は新入生オリエンテーション時や導入教育としての F C (Freshmen Camp)内で周知している。目指すべき教師像についても新入生オリエンテーション時や導入教育としての F C (Freshmen Camp)内で周知している。教職課程の目的・目標、目指すべき教師像を周知する際、特に保育科においては、学科が作成した導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」を用いている。

##### <根拠となる資料・データ等>

聖徳大学短期大学部学則

教育課程

新入生オリエンテーションプログラム

F C (Freshmen Camp)プログラム実施計画

保育科 導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」

《1-1-②》 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

##### 〔現状説明〕

教職課程の目的・目標である卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)については、授業科目のシラバスにおける「卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)との関連」の欄に明記している。特に保育科では、学科の会議等で情報を共有し、関連授業科目の担当教員がシラバスの整合性を図っている。幼児教育実習の事前・事後指導においては、幼稚園実習委員会の担当教員により、指導内容に応じて担当を分担し、また、担当が作成した指導計画を委員間で検討し、共通理解を図り、教員が共同で執筆した教科書「聖徳大学幼稚園実習必携」を用いて、目的・目標を共有して指導に当たっている。教職実践演習においては、担当教員間でシラバスを共同で作成している。また、担当教員が共同で作成した「教職実践演習ポートフォリオ」「履修カルテ」を活用して、授業を行っている。

##### 〔長所・特色〕

教職課程の目的・目標である卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)については、「授業計画(シラバス)執筆要領」に基づいて各授業科目のシラバスに記載している。指導内容を踏まえ、専門性を生かし役割を分担している。関係職員とも目標・目的を共有して指導に当たっている。保育科においては、教職実践演習の説明会を、1年春学期の成績発表後に位置づけ、「履修カルテ」に入力することで、科目の目的を意識するよう計画的に実施している。

##### <根拠となる資料・データ等>

保育科科別会議事録

聖徳大学短期大学部学則

## 教育課程

幼稚園実習委員会議事録  
各事前・事後の指導計画  
教科書「聖徳大学幼稚園実習必携」  
シラバス  
授業計画（シラバス）執筆要領  
教職実践演習ポートフォリオ  
履修カルテ

《1-1-③》教職課程教育を通して育もうとする学習成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。  
〔現状説明〕

保育科における卒業認定・学位認定の方針（ディプロマ・ポリシー）と関連して教職課程の学習成果は、「教育課程（履修要項）」や学科が作成した導入教材用冊子「保育科生として学ぶために」に掲載し可視化している。特に、カリキュラム・マップでは、学科で学ぶ科目の履修計画が示されており、これらは入学時や学年はじめのオリエンテーション時に説明し、学生自ら履修状況を確認できるように指導している。また、履修計画は「教育課程（履修要項）」にも明示されている。さらに、各科目のシラバスには卒業認定・学位認定の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連が記載されており授業毎、ガイダンス時に説明し周知している。

### 〔長所・特色〕

保育科では、学習成果を可視化できるように学科が作成した導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」やカリキュラム・マップを用い、学科の卒業認定・学位認定の方針（ディプロマ・ポリシー）と履修計画を提示している。なお、履修状況の達成を明らかにするために1年次に「履修カルテ」を作成することにより、教員として身につけるべき必要な知識技能や態度について可視化し、自己理解・自己確認ができる資料として活用している。

### ＜根拠となる資料・データ等＞

教育課程（履修要項）  
カリキュラム・マップ  
導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」  
シラバス

## 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

《1-2-①》教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

### 〔現状説明〕

教員の配置は教職課程認定基準で定められた基準を満たしている。また保育科、専攻科ともに令和3年に「課程認定の際に付された留意すべき事項に対する事後調査」についても十分な研究業績をもって対応を完了している。配置されている教員は保育内容の指導法に関わる科目をはじめとして教職課程に関わる科目を適切に担当している。

研究者教員と実務家教員は学科の会議等で情報を共有し、連携を図りながら協働する体制を整えている。

### 〔長所・特色〕

幼稚園の管理職経験者である実務家教員が5名いる。

### ＜根拠となる資料・データ等＞

教員会資料  
課程認定の際に留意すべき事項を付された大学に係る事後調査対応届の審査結果について（通知）  
研究業績一覧  
シラバス

科別会議事録

《1-2-②》 教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。

〔現状説明〕

本学においては、保育科、専攻科がそれぞれ課程認定を受け、学科において責任をもって教職課程の運営を行っている。

さらに、大学と合同の全学的組織としての「教職課程委員会」を設置している。教職課程委員会は、聖徳大学及び聖徳大学短期大学部の教職課程の運営及び学生の教職指導等に関する全学的事項を審議することを目的とし、それぞれの学科等で教職課程を担当する教員、事務職員による次のような構成で委員会運営を行っている。

【教職課程委員会組織】

委員長：1名

副委員長：1名

委員：児童学科教員 4名

教育学科教員 4名

社会福祉学科教員 1名

文学科教員 5名

人間栄養学科教員 1名

保育科教員 2名

大学事務局長、学生部長、学生部次長、生涯学習部次長、

教育支援課長、キャリア支援課長、通信教育学務課長

この委員会においては、各学科における教職課程運営の課題を共有し、その解決に関する検討を行っている。全学的組織であることにより、そこでの検討内容は各教職課程にフィードバックされている。

さらに、この委員会の下に、「教育実習部会」を設置し、教育実習の運営に特化して、教育実習の運営、学生指導全般に亘って全学的な検討を行っている。こうした教育実習部会での検討に即して、各学部・学科の実習に関わる実習担当委員会がより具体的な教育実習運営、教育実習計画の作成、学生指導を行っている。現在、次の7つの実習委員会が設置されている。

小学校実習委員会

中学校・高等学校実習委員会

介護体験実習委員会

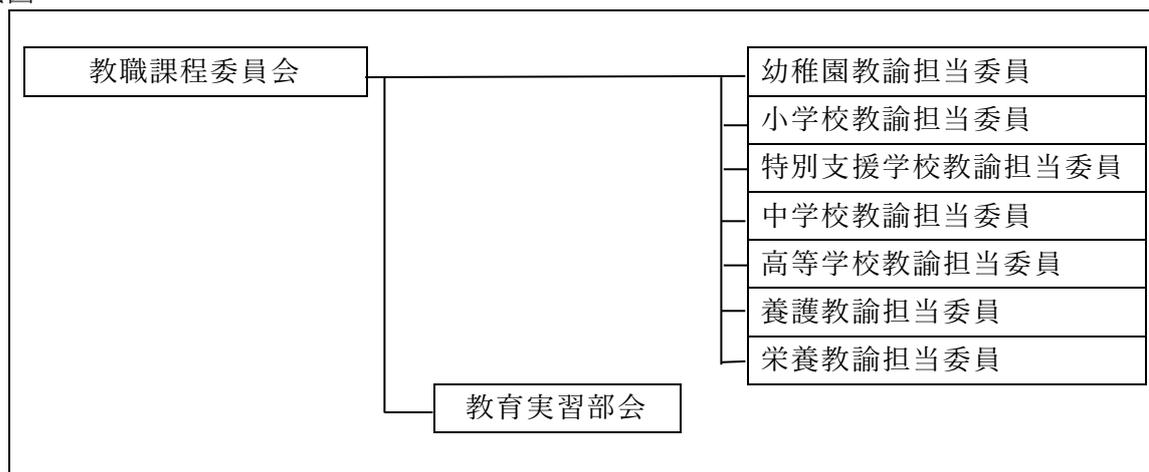
特別支援学校教育実習委員会

幼稚園実習委員会

栄養教諭実習委員会

養護実習委員会

組織図



また教職課程担当の教員が、それぞれの専門性を活かして、「教職実践演習」をはじめとする教職科目を担当し、高い成果をあげている。

〔長所・特色〕

各学部・学科の教職課程運営の課題等が集約できる組織体制になっている。また、教職課程委員会の構成委員が多く、さまざまな課題を幅広く検討できる組織になっている。さらに、教職課程委員会、教育実習委員会、実習担当委員会が関連をもって組織されており、各学部・学科の教職課程運営の課題、全学的な課題を機動的に検討できるようになっている。

〔取り組み上の課題〕

現在の「教職課程委員会」で全学の協力体制は担保できている。しかし、さらにそれを強力なものとするために、中期的課題として、それぞれの学部・学科の教職課程の関係をいっそう有機的なものとするために、「全学教職課程センター」の設置があげられる。

<根拠となる資料・データ等>

教職課程委員会規程  
シラバス

《1-2-③》教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。

〔現状説明〕

教職課程の授業は普通教室のほか、図画工作室、Music Laboratory System 教室、体育館、パソコン教室等、学内の適切な施設で行っており、必要な設備を整備している。ICT 教育に対応できる環境として、学生用パソコンの合計台数は大学と共用で 126 台ある。その内、メディアパークでは、デスクトップパソコン 46 台、ノートパソコン 30 台が自由に使用できる環境を整備している。メディアパーク以外では、3 号館に 22 台、7 号館に 18 台、8 号館に 10 台のパソコンを設置しているほか、学内基幹ネットワークは 1 Gbps を可能な配線とし研究室、一般教室、実験室等には情報コンセントを設置している。また、ほとんどの教室に Wi-Fi を設置しており、パソコンの持込による利用を可能とし、学生の学習支援のために必要な学内 LAN を整備している。また Microsoft Office 365 を導入して ICT 活用能力の向上にも活用している。多くの教室では移動式の机を取り入れており、必要に応じて模擬保育を行える環境を整えている。図書館には、教育実習等で活用する絵本 1 万冊以上を含め、図書 547,206 冊（和書 468,516 冊、外国書 78,690 冊）、雑誌 3,134 種（和雑誌 2,476 種、外国誌 658 種）が備えられている。

〔長所・特色〕

ほとんどの教室に Wi-Fi を設置しており、パソコンの持込による利用を可能とし、学生の学習支援のために必要な学内 LAN を整備している。また Microsoft Office 365 を導入して ICT 活用能力の向上にも活用している。

＜根拠となる資料・データ等＞

学生便覧

時間割

Microsoft Office 365 利用の手引き

＜1-2-④＞教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）やSD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。

〔現状説明〕

「学生による授業アンケート」を、春学期・秋学期それぞれ原則として全授業科目を対象に実施している。その結果をもとに学生へのフィードバックを行った後、「自己点検・評価シート」を教務委員会に提出している。保育科においては、学科のFD研修会を年間2回実施している。なお、これには専攻科の教職課程の担当教員も参加している。令和4年度は5月に「学生主体の動画制作を通じたゼミ活動～アクティブ・ラーニングの視点から」をテーマとしてICTの活用方法と教育成果について研修を行った。11月には「学生の学習成果の具体化・可視化についての情報共有と意見交換」と題してICTを活用した履修カルテ等に関する研修を行った。

〔長所・特色〕

学科独自のFD研修会を定期的実施し、教育課程の質的向上に取り組んでいる。

〔取り組み上の課題〕

保育科FD研修会での研修後の更なるフィードバックの検討が求められる。

＜根拠となる資料・データ等＞

保育科科別会議事録

「学生による授業評価」（アンケート調査）の実施

学生による授業アンケートの「自己点検・評価

学生による授業アンケート「結果の考察」の点検

学科FDアンケート調査

保育科学科FD活動報告書

＜1-2-⑤＞教職課程に関する情報公表を行っている。

〔現状説明〕

教職課程に関する情報については、大学ウェブサイトで公開し、毎年更新を行っている。公開している情報は次のとおりである。（項目のみ）

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画</li> <li>2. 教員の養成に係る組織及び教員の数</li> <li>3. 各教員が有する学位及び業績</li> <li>4. 授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに授業計画</li> <li>5. 教員免許状の取得状況（令和3年度実績）</li> <li>6. 教員への就職状況</li> <li>7. 教員養成に係る教育の質向上のための取り組み</li> </ol> |
|---|

特に、7.においては、本学に設置されている教職実践センターの業務を紹介しながら、教員養成の質向上に資するセンターの支援体制を公開している。

また、質向上への取り組みとして、授業方法の効果的導入について、アクティブ・ラーニング（能動的学修）の導入、PBL（Problem/Project Based Learning）の積極的推進、サービス・ラーニングの実施の現況を公開している。

**〔長所・特色〕**

本学の教職課程について全学的な視点をふくめて適切に情報公開が行われている。

**〔取り組み上の課題〕**

教職課程の自己点検についても積極的に公開し、教職課程のいっそうの充実に資することが課題となる。

**<根拠となる資料・データ等>**

大学ウェブサイト ([https://www.seitoku-u.ac.jp/about/jouhou\\_datafile/](https://www.seitoku-u.ac.jp/about/jouhou_datafile/))

《1-2-⑥》全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、させようとしている。

**〔現状説明〕**

本学においては、大学を含めた全学的組織「教職課程委員会」が設置されており、そこで各学部・学科の教職課程の取り組みや課題を集約する体制が構築されている。各学部・学科教職課程から提出された課題については、委員会で検討を行いこの解決を図っている。これらは各学部・学科教職課程にフィードバックされている。

さらに、教育実習、教職実践演習などの具体的な取り組みについては、各実習委員会が機動的に対応する体制が整っている。これらの委員会での課題は、教職課程委員会で検討され、それらが各委員会にフィードバックされ、それぞれの課題解決に即応できることとなっている。また保育科では、学習成果を踏まえた教育課程等の検討を学科の会議において実施するなど、自己点検を行っている。

こうした体制によって、教職課程の自己点検のサイクルが形成されている。これによって、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。

**〔長所・特色〕**

教職課程委員会、教育実習委員会、実習担当委員会が機動的に連携できる組織になっており、このことにより教職課程の自己点検のサイクルが形成され、教職課程の在り方や課題解決に組織的に取り組むようになってきている。

**〔取り組み上の課題〕**

現在は、大学と連携して各学部・学科教職課程が自己点検を行い、それを教職課程委員会で検討、点検しているが、その点検により新たな課題を析出し、その解決を図っていくという、自己点検のサイクルをいっそう充実していくことが課題である。

**<根拠となる資料・データ等>**

大学組織図

教職課程委員会規定

教職課程委員会議事録

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

《2-1-①》当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。

#### 〔現状説明〕

保育科の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)には、本学の教職課程で学ぶにふさわしい学生像を示した上で養成する保育者像を掲げ、それを達成するために適切なカリキュラムが編成されていることを明記している。入学者に対する本学の教職課程に関する情報は、総合案内、学科のパンフレット等で説明されており、本学のウェブサイトでも公開されている。また、オープンキャンパスで毎回、学科の特徴を紹介しており、その中で学科の教職課程について説明している。

#### 〔長所・特色〕

保育科独自のパンフレットを作製しており、毎年、改定・改良している。

#### <根拠となる資料・データ等>

「HOIKUKA」(保育科を紹介するパンフレット)

「ホイクカの7つのポイント」(保育科の7つの特徴パンフレット)

「幼稚園教諭免許状&保育士資格 2年間でW取得ができます」(パンフレット)

《2-1-②》「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

#### 〔現状説明〕

保育科は保育者養成を目的としているため、学科の教育課程編成・実施の方針(教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー))は教職課程のそれと合致するものである。教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に全学で共通に展開する科目とそれらを基礎として相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成していることを明示し、専門教育科目については具体的に「子どもを理解する力を育成する」科目群、「表現を創造する力を育成する」科目群、「保育を創造する力を育成する」科目群、学科独自の「地域で学ぶ」科目群、実習指導や実習をメインにした「保育現場で学ぶ」科目群に分けて説明している。また、「卒業認定・学位授与の方針」で保育者養成を謳っている通り、入学生全員に教職課程の履修を勧めている。そのため、新入生オリエンテーション時や導入教育としてのFC(Freshmen Camp)内で履修に関するガイダンスを行っている。なお、保育科では入学者全員に教職課程の履修を勧めているため、教職課程履修の条件は定めていない。教育実習への参加については全ての事前指導に出席することを義務づけており、やむを得ない理由で欠席した学生には再指導の機会を設けて対応している。また、「幼児教育実習Ⅱ」については「幼児教育実習Ⅱ履修基準」を設け、学内の学習における一定以上の成果を求めている。1年生は2年生が行う「附属幼稚園実習体験発表会」「実習体験発表会」に参加することが義務づけられており、1年生はその後の教職や実習についてのモチベーションを高めている。

#### 〔長所・特色〕

保育科では、教職課程のカリキュラムに関して、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に明記しているとおり「全学で共通に展開する科目とそれらを基礎として相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目」に分け、計画的に修得できるようにしている。1年生は2年生が行う「附属幼稚園実習体験発表会」「実習体験発表会」に参加することが義務づけられており、1年生はその後の教職や実習についてのモチベーションを高めている。

#### <根拠となる資料・データ等>

教育課程(履修要項)

聖徳大学幼稚園実習必携

新入生オリエンテーションプログラム

F C (Freshmen Camp) プログラム実施計画  
導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」

《2-1-③》「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

〔現状説明〕

保育科では「卒業認定・学位授与の方針」で保育者養成を謳っている通り、入学生全員に教職課程の履修を勧めている。そのため、新入生オリエンテーション時や導入教育としてのF C (Freshmen Camp) プログラム内で情報発信している。また、入学生全員に教職課程の履修を勧めているため、入学者数が教職課程の履修人数である。昨今の保育業界の状況を踏まえると、教職課程のみならず保育士課程を併せた履修が望ましい。その点を考慮しても入学者数は適正履修人数となる。

〔長所・特色〕

学科が作成した導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」を用いて情報発信し、履修学生を受け入れている。

＜根拠となる資料・データ等＞

新入生オリエンテーションプログラム  
F C (Freshmen Camp) プログラム実施計画  
導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」  
課程登録状況

《2-1-④》「履修カルテ」を活用する等、学生の適性或資質に応じた教職指導が行われている。

〔現状説明〕

「履修カルテ」を用いて、教員を目指すうえで必要な履修状況の理解と振り返りの指導を実践している。教員免許状取得における履修状況の達成と教員として身につけるべき必要な資質・能力について、総合的に把握し、自己理解・自己課題を把握する指導をしている。

特に「幼児教育実習Ⅱ」においては、保育実習を含む他の実習での評価を共有し、必要に応じて個別指導を行っている。「附属幼稚園体験発表会」「実習体験発表会」においては、2年生は、実習の振り返りを発表することによって、プレゼンテーション力等の資質・能力の向上を、1年生は、実習への心構えや見通しをもたせる指導している。

〔長所・特色〕

「履修カルテ」は、Teams の課題機能を活用し、 Semesterごとに学生が入力をする指導をしている。幼児教育実習に対すると自覚と意識、意欲を引き出す指導体制を整え、学生の適性或資質に応じた対応を行っている。

＜根拠となる資料・データ等＞適性

履修カルテ  
他実習の判定会議資料  
「附属幼稚園体験発表会」「実習体験発表会」各計画書

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

《2-2-①》学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔現状説明〕

新入生オリエンテーションや導入教育においては、保育科教員が作成した「保育科生として学ぶために」を基に指導を行っている。その際学生は、「卒業時の自分」を意識することによって、教職に対する意欲の向上を目指し、教職を含めた保育者への意欲を発表する。それを通して、教員は学生の意欲を把握している。また卒業年次生を対象に「ようこそ先輩 幼保版」を実施し、公私立幼稚園をはじめとする保育現場で活躍している卒業生の話が聴ける機会を提供し、学生が回答したアンケート調査を通し教職への意欲を把握してい

る。

〔長所・特色〕

「保育科生として学ぶために」は、その年度の導入教育のプログラムの展開に応じて内容を構成し、教職に対す意欲の向上を図るために作成されたものである。卒業生の話から、園選びのコツ、就職試験のポイント、保育現場の魅力、職務内容の理解など、就職活動に役立つ情報を知ることができる。そして、保育職への理解を深め、就職への見通しをもつことができる。

＜根拠となる資料・データ等＞

導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」  
 「ようこそ先輩 幼保版」オンライン視聴について  
 「ようこそ先輩 幼保版」参加者アンケート

《2-2-②》 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

〔現状説明〕

キャリア支援課が中心となり、学生向けに各ガイダンス、採用試験対策講座を実施している。特に保育科の学生を対象としては、次のとおりの内容を展開している。

＜教育職・福祉職関係志望者向け（幼稚園・保育所・施設など）＞

第1回 就職ガイダンス

幼稚園・保育所・福祉施設ごとに就職活動スケジュールを説明し、今までの採用状況や、次年度予測、求められる資質などを説明する。

第2・3回 就職ガイダンス

幼稚園・保育所・福祉施設ごとに、就職活動方法を説明する。また、以降にある就職関連イベントについても説明している。

また教員による、公立幼稚園教諭希望者を含む公務員採用試験対策講座を実施している。具体には以下の通りである。

＜公務員採用試験対策講座＞（大学と合同）

1年次6月に全体会を実施。その後2年次7月までに13回、計14回の講座を開催し、エントリーシートや小論文、専門試験の指導を実施している。

＜公立幼稚園教員採用一次試験対策＞（大学と合同）

1年次の12月に採用試験体験者からのアドバイスを聞く機会を設け、3月に特別区採用説明会を開催している。2年次の4月以降7回にわたり講座を開催し、主に小論文の指導を実施している。

＜特別区立幼稚園教員採用二次試験対策＞（大学と合同）

一次試験合格者を対象に、面接、模擬保育等の指導を16回程度実施している。

＜保育科独自の講座＞

上記の講座と平行し、小論文や面接の個別指導を20回程度実施している。

〔長所・特色〕

キャリア支援課と教員が連携を取り、きめ細かい指導を行っている事に加え、大学と合同の講座と平行して、個別指導を行っている。

＜根拠となる資料・データ等＞

「就職支援講座」の案内文  
 「公務員採用試験対策講座」「公立幼稚園教員採用一次試験対策」「特別区立幼稚園教員採用二次試験対策」予定表  
 小論文・面接指導記録

《2-2-③》 教職に就くための各種情報を適切に提供している。

〔現状説明〕

私立幼稚園からの採用情報については、キャリア支援課により提供されている。また、専用のウェブサイト「SEITOKU NAVI」を通して、採用情報を提供しているため、学生は自

宅からでも情報を検索・確認できる。公立幼稚園教員採用試験の情報についても説明会を通じて情報提供している。

〔長所・特色〕

学生は自宅からでも採用情報を検索・確認できるシステムを運用している。

＜根拠となる資料・データ等＞

求人票

SEITOKU NAVI

「公立幼稚園教員採用一次試験対策」予定表

＜2-2-④＞ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

〔現状説明〕

幼稚園就職希望者については、就職率 100%である。キャリア支援課においては、「就職支援講座」が年6回開講され、Teams で周知している。出席状況は担任に報告し、キャリア支援課との連携を密に図っている。ほかに、「ジョブフェア」を6～8月に、2年生対象個人面談を7月に実施し、就職率を高める工夫をしている。授業外に「公立対策講座」を設け、指導に必要な過去の教員採用要項、試験問題、小論文問題を「保育科の部屋」に用意し、活用しながら指導に当たっている。小論文の指導は個別に対応し、二次試験（面接、模擬保育等）の指導は、大学と合同で行っている。更には、2年次9月に開催する「就活出陣式」を通して、就職活動への意識を高めるなど、教職を含めた就職率を高める工夫を行っている。

〔長所・特色〕

関係職員との連携を密にし、就職率の向上を図っている。「公立対策講座」の小論文、面接練習の指導に当たっては、実務経験教員が担当し、経験を生かして指導しているほか、「就活出陣式」を開催している。

＜根拠となる資料・データ等＞

「就職支援講座」「ジョブフェア」「個人面談」の案内文  
公立対策用の過去の教員採用要項、採用試験問題、小論文問題  
就活出陣式次第

＜2-2-⑤＞ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔現状説明〕

卒業年次生を対象に「ようこそ先輩 幼保版」を実施し、公私立幼稚園をはじめとする保育現場で活躍している卒業生の話が聴ける機会を提供している。また、地域の多様な人材と連携して毎年“アートパーク”を実施している（主催：児童学研究所、生涯学習研究所 共催：教育学部児童学科・短期大学部保育科）ほか、松戸市が後援する“ラストサマー・フェス&盆踊り”（主催：松戸まちづくり会議）に毎年参加し、地域のニーズに応じた子育て支援の実践を行っている。このような取り組みを通して、地域の多様な人材との連携を図り、実践的な学士力を伸ばしてキャリア支援に活かしている。

〔長所・特色〕

「ようこそ先輩 幼保版」における卒業生の話から、園選びのコツ、就職試験のポイント、保育現場の魅力、職務内容の理解など、就職活動に役立つ情報を知ることができるほか、保育職への理解を深め、就職への見通しをもつことができるようになっている点が特色のひとつである。また、アートパークやラストサマー・フェス&盆踊りでは、町内会、保育所、子育て支援施設、地域有志、中学校美術部といった多様な参加団体との交流を行い、学生が地域の子どもたちと直接交流し、遊びの機会を提供している。

〔取り組み上の課題〕

保育科の密度の濃いカリキュラムの中で、学生が気持ちのゆとりをもって参加する時期を設定することが困難である。地域の多様な人材と交流を図ることのできる機会として、現在は、有志の活動（「子どものアート研究グループ」）で行われているが、より多くの学

生が参加できる組織づくりが課題である。

**<根拠となる資料・データ等>**

「ようこそ先輩 幼保版」参加者アンケート

アートパーク 14 チラシ及びポスター

保育科ブログ

保育科パンフレット・「子どものアート研究グループ」紹介リーフレット

「はみ出す力展」出品

「2022 ラストサマー・フェス&盆踊り」協力依頼書、企画概要書

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

《3-1-①》教職課程科目に限らず、卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。

##### 〔現状説明〕

保育科では幼稚園教諭二種免許状取得に必要な必修の専門科目は53単位であり、教職課程科目と接続するものである。特に本学の特色は、実技系の専門科目について基礎から応用へと発展する科目を備えており、建学の精神を踏まえた質の高い保育者養成を行っていることにある。令和4年度入学生より、2年次科目として「保育表現創造演習Ⅰ」「保育表現創造演習Ⅱ」を新設し、幼稚園教諭に求められる創造性の指導力育成を目指している。また「社会貢献の入門」も新設し、保育者を目指す学生に必要な社会貢献の基礎教養の習得を目指している。

専攻科では学士取得のための科目を開講している。

##### 〔長所・特色〕

保育科では実技系の専門科目について、基礎から応用へと学生の専門的知識・技術が獲得できるようにカリキュラム化している。社会貢献の担い手としての教職を含む保育者養成という視点を取り入れている。

##### 〔取り組み上の課題〕

保育科開講の「保育表現創造演習Ⅰ」「保育表現創造演習Ⅱ」は複数の教員の連携により実施する科目であるため、教員間の緊密な連携が求められる。

##### <根拠となる資料・データ等>

教育課程

「実習をコアにしたキャリア形成カリキュラム・マップ」

シラバス

《3-1-②》学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

##### 〔現状説明〕

保育科では、「実習をコアにしたキャリア形成カリキュラム・マップ」から明らかなように、「人間性を高める」科目群では、本学ならではの聖徳教育を始めとする「人間性」を育てる科目群が各学期に配置されている。さらに「人間性を高める」科目群と「学びの基礎を身につける」科目群を基礎にして、専門科目群（教職科目）である「子どもを理解する」科目群から「保育現場で学ぶ」科目群までの5つの専門科目群を体系的に配置し、有効に関連している。各実習の実施時期の学生の成長・発達を踏まえ「子どもを理解する」科目群から「地域で学ぶ」科目群を体系的に構成している。また各科目群は1年次より卒業次に至るまで、各実習と関連づけながら、基礎的な科目から応用的な科目へと発展するカリキュラム編成を行っている。

##### 〔長所・特色〕

「実習をコアにしたキャリア形成カリキュラム・マップ」では、実習をコアにして専門科目群（教職科目群）とそれ以外の学科科目群を縦軸及び横軸に配列しており、さらにそれぞれの科目群の特徴も示しており、学生自身が自らの学習段階を確認することができる。

##### 〔取り組み上の課題〕

科目群内の教員の連携及び科目群間の教員の連携を密接にとることが求められる。

##### <根拠となる資料・データ等>

「実習をコアにしたキャリア形成カリキュラム・マップ」

シラバス

「教育課程（履修要項）」

《3-1-③》教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今

日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

〔現状説明〕

「領域に関する専門的事項」は領域の基盤を学習するものであるため原則として1年次に、「保育内容の指導法」は保育の内容で実践すべき力を身につけるものであるため2年次に位置づけられている。その他「教育の基礎的理解に関する科目」等は教育実習の実施時期に合わせ適切に位置づけている。

〔長所・特色〕

実習をコアにしたカリキュラムを編成しており、学内における学習と実習との相互作用で実践力を育む仕組みを構築している。保育科の卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)は千葉県の教員育成指標に定められている「求める教員像」と合致するものであり、この卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)を基に策定された教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)にのっとりカリキュラムを編成・実施することにより、今日の幼児教育に対応している。

<根拠となる資料・データ等>

カリキュラム・マップ

「教育課程」

シラバス

千葉県・千葉市教員等育成指標

《3-1-④》今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

〔現状説明〕

保育科では、「情報活用演習(基礎)」をはじめとし、その他の教職課程科目においても ICT 機器を活用し、情報活用能力を育成する内容が位置づけられている。具体的には、「情報活用演習(基礎)」では、ICT 基礎概念・操作方法の学習とともに、学生自らが保育に関わる問題設定を行い、その課題に対して、ICT 機器を利活用した情報収集・分析・問題解決の結果をまとめて発表する内容などが情報活用能力を育成するために位置づけられている。

「幼児と音楽表現 B」においては Microsoft Teams の課題機能を利用した振り返りシートの提出を求めており、これは文科省による「情報活用能力育成のための想定される学習内容」の「基本的な操作等」に相当するものである。「保育原理 I」では、幼稚園や幼保連携型認定こども園で連絡帳、園だより、クラスだより、掲示板等で ICT 活用が進められており、情報活用能力の必要性を学生に伝えている。

また、「幼児と音楽表現 A」では、ICT 機器を利用し、絵本にピアノで効果音や BGM を付ける課題を最終的に動画提出させている。さらには、「発達心理学」及び「特別な支援を要する子どもの理解と支援」においても、インターネット等を活用して、授業内容に関する最新の信頼できる情報の探し方や多面的な視点を持つことの重要性を意識させる内容を位置づけている。また、1年次の春学期に「情報活用演習(基礎)」を、秋学期に「情報活用演習(教職)」を履修できるように教職課程カリキュラムを構成している。これらの科目を早期に履修することによって他の教職課程科目においても ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育がスムーズに展開できるようにしている。

〔長所・特色〕

「情報活用演習(基礎)」では、Word、Excel、PowerPoint の演習問題を「園だより」の作成など、主体的に学べるような課題で身につけるようにしている。また、Moodle、Teams 等により、学生からのレポート提出や、教員からの講義資料の提供など、インターネット上でも講義や指導ができるようにしている。

〔取り組み上の課題〕

入学時(授業開始時)における PC 等情報機器の取り扱い習熟度の差に対する配慮が求められる。

<根拠となる資料・データ等>

## シラバス

《3-1-⑤》アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

## 〔現状説明〕

本学の全ての開講科目については、「授業計画(シラバス)執筆要領」に基づいて、すべての授業においてアクティブ・ラーニングの方法が導入されている。例えば、「幼児と音楽表現 B」においてはグループワークならびにグループ発表を取り入れ、自主的に考え、協働して取り組み、意見を伝える力を育てている。また Microsoft Teams の課題機能を利用した振り返りシートを活用し学習成果及び自己課題の明確化に取り組んでいる。「保育原理 I」や「保育・教育課程論」では、教師から学生への質問、小課題を用いての小グループによる話し合いなど、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れている。また、「幼児と造形表現」では、造形表現が子どものコミュニケーション能力の育成にどのように作用するのかを実感できるように、授業では随時話し合いや発表などアクティブ・ラーニングの手法を随時取り入れている。

さらに「幼児と健康」や「保育内容・健康」では、「保育現場の事例を読む・映像を視聴する」ことによって学んだことや気付いたことについて意見交換を実施するなど、グループワークやアクティブ・ラーニングを促し、課題発見や問題解決等の力量を育成している。

「発達心理学」においても、幼児の発達に関する知識を修得するために、授業内容に応じてアクティブ・ラーニングやグループワークを行い、発達の理解及び発達に即した関わりの力量の育成を目指している。保育科の教職課程カリキュラムでは、このような取り組みが実施されていることを明確化するため、シラバスの「授業の方法と開講方法の別」欄にアクティブ・ラーニングの方法が用いられていることを明記している。「教職実践演習」では、課題発見や課題解決等の力量を育成するために、アクティブ・ラーニングを活用し、模擬保育等を導入している。また、「幼児と音楽表現 A」では、幼児の曲を歌いながらピアノ演奏をする「弾き歌い」の具体的技術を学び、半期に一度クラス全体で学生一人ひとりが幼児曲の弾き歌いを発表する「演習発表」の場が「模擬保育」として位置づけられている。さらには、「保育内容・音楽表現 I」においても、実際の保育現場において、一人で音楽表現活動を展開することを想定した「模擬演習」が「模擬保育」として位置づけられている。

## 〔長所・特色〕

「授業計画(シラバス)執筆要領」を踏まえ、すべての授業でアクティブ・ラーニングが導入されている。Moodle、Teams のシステムを導入することにより、学生からのレポート提出や、教員からの講義資料の提供など、インターネット上でも講義や指導ができるようにしていることである。これらのシステムは遠隔授業でも活用できるようになっている。

## ＜根拠となる資料・データ等＞

授業計画(シラバス)執筆要領

シラバス

振り返りシート

《3-1-⑥》教職課程シラバスにおいて、各科目の学習内容や評価方法を学生に明確に示している。

## 〔現状説明〕

保育科の教務委員4名により、学習内容や評価方法を含む記載内容を点検し、必要があれば学科長より記載内容の修正を指示している。その後、学内ウェブポータルシステム(Active Academy)を通じて学生に明確に示している。

## 〔長所・特色〕

複数名の教務委員による入念な点検が行われている。

## 〔取り組み上の課題〕

シラバスの閲覧方法の変化によるデータ管理の最適化が求められる。

<根拠となる資料・データ等>

教務委員会会議資料  
 保育科科別会議事録  
 シラバス点検実施要領  
 シラバス点検実施結果報告書（総括）（個人）  
 シラバス点検データ（保育科）  
 学内ウェブポータルシステム（Active Academy）

《3-1-⑦》教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

〔現状説明〕

教育実習の履修については全ての事前指導に出席することを義務づけており、やむを得ない理由で欠席した学生には再指導の機会を設けて対応している。また、「幼児教育実習Ⅱ」については「幼児教育実習Ⅱ履修基準」を設け、学内の学習における一定以上の成果を求めている。

〔長所・特色〕

保育科の教育実習指導の特徴は、1年次初めの実習として「教育実習Ⅰ」が実施され、2年次の最後に「教育実習Ⅱ」が位置づけられていることである。特に、「聖徳大学幼稚園必携」を基に、聖徳大学教育学部児童学科、聖徳大学短期大学部保育科、聖徳大学幼児教育専門学校での教育実習の学びの質を揃えることにより、教育実習までのプロセスが明示されている。

<根拠となる資料・データ等>

「聖徳大学幼稚園実習必携」  
 「保育科保育実習の手引き」

《3-1-⑧》「履修カルテ」等を用いて、学生の学習状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

〔現状説明〕

教職実践演習の説明会において、教員として求められる資質・能力について指導している。「履修カルテ」を用いて、自己の履修状況の把握、管理を促し、各自が教職を目指す者として取り組むべき課題等を指導している。さらには、「教職実践演習」の指導においては、「履修カルテ」を用いて、教職を目指す者として身につけるべき必要な資質や知識技能、自己課題等について、自己を振り返るよう総合的な指導をしている。

〔長所・特色〕

教職実践演習の説明会を、1年春学期の成績発表後に位置づけ、「履修カルテ」に入力することで、科目の目的を意識するよう計画的に実施している。「履修カルテ」は、Teamsの課題機能を活用し、セメスターごとに学生が入力をする指導している。

<根拠となる資料・データ等>

シラバス  
 教職実践演習ポートフォリオ  
 履修カルテ

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

《3-2-①》取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

〔現状説明〕

保育科では、実習をコアにした教育課程を編成し、「附属幼稚園見学実習」を初めての現場体験として位置づけ、1年次に「幼児教育実習Ⅰ」（附属幼稚園）、2年次に「幼児教育実習Ⅱ」（指定幼稚園）を位置づけ、各実習において事前・事後指導を行い、実践的指導力を育成している。「幼児と音楽表現B」では、幼児教育における幼児の表現活動に関する実

実践的指導力の育成を目指し、その基盤を学習することを目的として開講している。「保育原理Ⅰ」「保育・教育課程論」では、単なる専門的教養に留まらず、幼稚園教諭の意見を取り入れながら、実践的な専門的知識・技術を学生に伝えるように努めている。「幼児と造形表現」においても、幼児の造形指導に必要な知識・技能、発想力、表現力を身につけることを目標に、実技の体験を通して実践的指導力を育成している。

また、「保育内容・健康」では、幼児対象の運動遊びを計画し、実践、グループワーク、発表を経て、保育者としての実践的指導力が育成されるよう工夫している。さらに「保育内容・音楽表現Ⅰ」でも、幼児の音楽表現活動を理解し、幼児の音楽的成長や発達を促す指導方法を身につけることを目的としている。「基礎専門体育Ⅰ」「基礎専門体育Ⅱ」においても、実践的指導力を育成するため、前者では、教材を通して表現力を高め子どもの様々な場面に応じた身体表現の実践力を養い、後者では、イメージから身体表現へと表現力の向上を目指している。「教職実践演習」においても、実践的指導力を育む育成を目指した授業内容が編成されている。

#### 〔長所・特色〕

「附属幼稚園見学実習」における園の概要説明、「幼児教育実習Ⅰ」（附属幼稚園）における事前指導とは別に行う「期別指導」では、附属幼稚園園長等による指導の場を設け、実践的指導力の向上に努めている。「幼児と音楽表現Ⅱ」では、アクティブ・ラーニングとしてグループワークやグループ発表を取り入れ実践的指導力を育成する機会を設定している。「幼児と造形表現」では、実践的な指導力育成のため、各課題を実習や現場でどのように活かすことができるか具体的に指導している。「保育内容・音楽表現Ⅰ」では、幼稚園教育要領を基に、領域「表現」のねらい、内容について理解し、知識・技術の修得により、自ら音楽あそびを創造・構成できるよう指導している。「基礎専門体育Ⅰ」「基礎専門体育Ⅱ」では、身体表現運動、グループ学習を取り入れ、実践に活かすことができるよう指導している。

#### 〔取り組み上の課題〕

保育科として目指す実践的指導力をさらに具体化し、教員間で共有し、各授業科目に反映させていくことで、更なる向上が見込まれる。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

附属幼稚園見学実習計画  
各事前・事後指導計画  
「聖徳大学幼稚園実習必携」  
実習録  
シラバス

《3-2-②》様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

#### 〔現状説明〕

幼児教育実習に加え保育実習についても、振り返りの機会として事後指導や実習体験発表会の場を設けている。

#### 〔長所・特色〕

1年生は2年生が行う実習体験発表会に参加することが義務づけられており、1年生はその後の実習に役立てることができる。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

実習指導計画  
実習体験発表会計画

《3-2-③》地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

#### 〔現状説明〕

卒業年次生を対象に「ようこそ先輩 幼保版」を実施し、公私立幼稚園をはじめとする

保育現場で活躍している卒業生の話が聴ける機会を提供し、子どもの実態や保育現場における教育実践の最新の事情についても学生が理解する機会を設けている。また、地域の多様な人材と連携して毎年“アートパーク”を実施している（主催：児童学研究所、生涯学習研究所 共催：短期大学部保育科）ほか、松戸市が後援する”ラストサマー・フェス&盆踊り”（主催：松戸まちづくり会議）に毎年参加し、地域のニーズに応じた子育て支援の実践を行い、地域の子どもの実態を理解する機会を提供している。

〔長所・特色〕

子どもの実態や最新の教育事情を理解するためのさまざまな機会が提供されている。その中でも、地域の子どもと直接触れあいながら実態を理解できる場を提供していることは、大きな特色となっている。

〔取り組み上の課題〕

地域の子どもと直接触れあいながら実態を理解できる場への参加は有志の活動に留まっており、より多くの学生が参加できる組織づくりが課題である。

＜3-2-④＞大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

〔現状説明〕

地域の幼稚園を管轄している松戸市役所子ども部幼児教育課とは教職課程に関して連携は図っていない。今後は、松戸市役所子ども部幼児教育課や松戸市私立幼稚園連合会との連携を検討することが必要である。

＜3-2-⑤＞教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を目標に連携を図っている。

〔現状説明〕

本学においては、幼稚園実習委員会と実習支援課が協力し、幼児教育実習が実施されている。

保育科では1年次の5月に附属幼稚園を見学する機会を設け、学科が附属幼稚園と連携しながら学生の教職に対する意欲の向上を図っている。また1年次秋学期に実施される「幼児教育実習Ⅰ」（附属幼稚園）の直前には、附属幼稚園園長等による指導の機会を設け、実習が充実することを目的に連携を図っている。また、2年次に実施される「幼児教育実習Ⅱ」（指定幼稚園）を含め、すべての幼児教育実習期間には保育科教員が実習園を訪問し、実習園の幼稚園教諭と連携して、実習が充実することを目的に学生の指導に当たっている。さらに、各実習終了後には実習園による評価表を参考にしながら事後指導を行い、成果の更なる充実を図っている。なお、「幼児教育実習Ⅱ」（指定幼稚園）の機会を利用し、多くの園長から「求める人材像」等を聞きとることにより、連携を図っている。

〔長所・特色〕

学園の大学附属幼稚園4園、大学幼稚園3園、計7園を有している強みを生かし、学園の幼稚園で全学生の実習ができる体制となっている。また「幼児教育実習Ⅰ」（附属幼稚園）においては、通常の事前指導に加え、実習園の園長等による指導が実施されている。

〔取り組み上の課題〕

幼児教育実習Ⅱ（指定幼稚園）の機会を利用し、多くの園長から聞き取った「求める人材像」を参考に、必要に応じて三つのポリシーや教育課程の見直しを検討していくことが必要である。今後、教職課程委員会において「幼児教育に関する項目」を検討し、関私教協や全私教協に意見を具申することも課題となろう。

＜根拠となる資料・データ等＞

附属幼稚園見学実習実施要領  
 期別オリエンテーション実施要領  
 園(施設)が求める人材に関する聞き取り調査結果

### Ⅲ. 総合評価

本学の教職課程の特色は、建学の理念である「和の精神」を教育理念とし、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、専門性の高い実践力をもつ人材を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献できる教員の育成を図っていることである。以下、基準領域に沿いながら本学の教職課程の全体評価を行う。

#### 【基準領域 1】

本学保育科は保育者養成を目的としている。教職課程教育の目的・目標は学則に定められた人材育成に関する目的を基に制定された卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)に定められており、目指すべき教師像とともに新入生オリエンテーション時や導入教育としてのFC(Freshmen Camp)プログラム内で学科が作成した導入教育用冊子「保育科生として学ぶために」等を用いてそれを周知している。

育成を目指す教師像の実現に向け、学科の会議等で情報を共有し、関連授業科目の担当教員がシラバスの整合性を図り教職課程教育を計画的に実施している。特に幼児教育実習の事前・事後指導においては、幼稚園実習委員会の担当教員間で共通理解を図り、教員が共同で執筆した教科書「聖徳大学幼稚園実習必携」を用いて、目的・目標を共有して指導に当たっている。

教職課程教育を通して育もうとする学習成果(Learning Outcomes)については、「教育課程(履修要項)」や「保育科生として学ぶために」で可視化している。また、カリキュラム・マップでは、学科で学ぶ科目の履修計画を示し、これらは入学時や学年はじめのオリエンテーション時に説明をし、学生自ら履修状況を確認できるように指導している。なお、履修状況の達成を明らかにするために1年次に「履修カルテ」を作成することにより、教員として身につけるべき必要な知識技能や態度について可視化し、自己理解・自己確認ができる資料として活用している。

教員の配置は教職課程認定基準で定められた基準を充足しており、配置されている教員は保育内容の指導法に関わる科目をはじめとして教職課程に関わる科目を適切に担当している。研究者教員と実務家教員は学科の会議等で情報を共有し、連携を図りながら協働する体制を整えている。

教職課程の運営に関しては、大学と合同の全学的組織「教職課程委員会」を設置し、それぞれの学科等で教職課程を担当する教員、事務職員によって委員会運営を行っている。さらに、教職課程委員会、教育実習委員会、実習担当委員会が関連をもって組織されており、全学的な課題も含めて検討し、学生指導を行っている。

教職課程の授業は普通教室のほか、図画工作室、Music Laboratory System 教室、体育館、パソコン教室等、学内の適切な施設で行っており、必要な設備を整備している。また、オンライン授業に対応するために学内のWi-Fi環境の整備に努め、授業を行う教室等ではほぼその整備を完了している。多くの教室では移動式の机を取り入れており、必要に応じて模擬保育を行える環境を整えている。図書館には、教育実習等で活用する絵本1万冊以上を含め、十分な図書が備えられている。

教職課程の質的向上のために、「学生による授業アンケート」を、春学期・秋学期に全授業科目を対象に実施し、その結果をもとに学生へのフィードバックを行った後、「自己点検・評価シート」を教務委員会に提出している。保育科においては、学科のFD研修会を、専攻科の教職課程の担当教員も参加して、年間2回実施している。

教職課程に関する情報については、大学ウェブサイトで公開し、毎年更新を行い、本学の教職課程について大学を含めた全学的な視点をもって適切に情報公開が行われている。

「教職課程委員会」において各学部・学科の教職課程の取り組みや課題を集約し、自己点検を行っている。また保育科では、学習成果を踏まえた教育課程等の検討を学科の会議において実施するなど自己点検を行っている。

#### 【基準領域 2】

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)には、本学の教職課程で学ぶのにふさわしい学生像を示した上で養成したい保育者像を掲げ、それを達成するために適切なカ

リキュラムが編成されていることを明記している。これらを総合案内や学科のパンフレット等で説明しているほか、本学のウェブサイトでも公開している。

保育科は保育者養成を目的としているため、学科の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)は教職課程のそれと合致するものである。また、「卒業認定・学位授与の方針」で保育者養成を謳っている通り、入学生全員に教職課程の履修を勧めている。そのため、教職課程履修の条件は定めていない。教育実習への参加については全ての事前指導に出席することを義務づけており、やむを得ない理由で欠席した学生には再指導の機会を設けて対応している。さらに、「幼児教育実習Ⅱ」については「幼児教育実習Ⅱ履修基準」を設け、学内の学習における一定以上の成果を求めている。

また、入学生全員に教職課程の履修を勧めているため、入学者数が教職課程の履修人数である。昨今の保育業界の状況を踏まえると、教職課程のみならず保育士課程を併せた履修が望ましい。それを考慮しても入学者数が適正履修人数となっている。

「履修カルテ」を用いて、教員を目指すに必要な履修状況の理解と振り返りの指導を実践している。教員免許状取得における履修状況の達成と教員として身につけるべき必要な資質・能力について、総合的に把握し、自己理解・自己課題を把握する指導をしている。特に、「幼児教育実習Ⅱ」においては、保育実習を含む他の実習での評価を共有し、必要に応じて個別指導を行っている。

「保育科生として学ぶために」を基に指導を行っている新入生オリエンテーションや導入教育において、学生は「卒業時の自分」を意識することによって教職に対する意欲の向上を目指し、教職を含めた保育者への意欲を発表することによって、これによって教員は学生の意欲を把握している。また卒業年次生を対象に「ようこそ先輩 幼保版」を実施し、公私立幼稚園をはじめとする保育現場で活躍している卒業生の話が聴ける機会を提供し、学生が回答したアンケート調査を通し教職への意欲を把握している。

キャリア支援については全学的組織であるキャリア支援課が中心となり、学生向けに各ガイダンス、採用試験対策講座を実施している。また、公立幼稚園採用試験対策講座を大学と合同で教員が実施している。さらに、保育科独自でも小論文や面接の個別指導も行い、適切なキャリア支援を組織的に行っている。

教職に就くための各種情報はキャリア支援課を中心に、掲示・ファイル・ウェブサイト・説明会を通して適切に提供している。

保育科においては、幼稚園就職希望者の就職率 100%である。キャリア支援課による講座については担任と連携して出席率を高めている。また「就活出陣式」を開催するなど、就職率を高める工夫を行っている。

公私立幼稚園をはじめとする保育現場で活躍している卒業生と連携し、卒業年次生を対象とした「ようこそ先輩 幼保版」を実施し、保育者の話が聴ける機会を提供している。また、地域の多様な人材と連携した取り組みを行い、実践的な学士力を伸ばしてキャリア支援の充実を図っている。

### 【基準領域3】

保育科では実技系の専門科目について、基礎から応用へと学生の専門的知識・技術が獲得できるようにカリキュラムを編成し、建学の精神を踏まえた質の高い保育者養成を行っている。更には、社会貢献の担い手としての教職を含む保育者養成という視点を取り入れている。

実習をコアにした教育課程を編成し、学生には科目群毎に特徴を示すとともに、実習と関連づけながら基礎的な科目から応用的な科目へと発展していることをカリキュラム・マップで示している。

卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)は千葉県の教員育成指標に定められている「求める教員像」と合致するものであり、この卒業認定・学位認定の方針(ディプロマ・ポリシー)を基に策定された教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)にのっとりカリキュラムを編成・実施することにより、今日の幼児教育に対応している。

「情報活用演習(基礎)」をはじめとし、その他の教職課程科目においても ICT 機器を活用し、情報活用能力を育成する内容が位置づけられている。「幼児と音楽表現 A」や

「発達心理学」においても ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応を取り入れている。

全ての開講科目においてアクティブ・ラーニングの方法を導入し、課題発見や課題解決等の力量を育成している。このような取り組みが実施されていることについては、シラバスの「授業の方法と開講方法の別」欄に明記している。

教育実習を行う上で必要な要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。特に、教科書「聖徳大学幼稚園必携」を使用して実習指導を行うことにより、事前・事後指導ならびに教育実習までのプロセスを明確化し、実りあるものとするよう努めている。

2年秋学期に開講される「教職実践演習」の説明会を1年春学期の成績発表後に位置づけ、学生が「履修カルテ」に入力することで、科目の目的を意識するよう計画的に実施している。Teams の課題機能を活用した「履修カルテ」を通して教員は学生の学習状況を把握できるため、学生の学習状況に応じたきめ細かな教職指導を行っている。

保育科では各教職科目において実践的指導力を育成する工夫を行っていることに加え、教育実習とは別に、1年次5月に本学附属幼稚園を見学する機会を設けている。更には附属幼稚園園長等による指導の場を設け、実践的指導力の向上に努めている。

幼児教育実習に加え保育実習についても、振り返りの機会として事後指導や実習体験発表会の場を設けている。1年生は、2年生が行う実習体験発表会に参加することが義務づけられており、1年生はその後の実習に役立てることができる。

卒業年次生を対象に「ようこそ先輩 幼保版」を実施し、公私立幼稚園をはじめとする保育現場で活躍している卒業生の話が聴ける機会を提供し、子どもの実態や保育現場における教育実践の最新の事情についても学生が理解する機会を設けている。

保育科では「幼児教育実習Ⅰ」（附属幼稚園）の教育実習協力校である附属幼稚園と連携して、本学附属幼稚園を見学する機会を設けている。更には附属幼稚園園長等による指導の場を設け、教育実習の充実を目標に連携を図っている。

以上のように本学教職課程では、本学建学の理念である「和の精神」に基づいた適切な教職課程を編成した上で、教職課程に関わる教職員が共通理解に基づき協働的に教職課程の実施に取り組み、教職課程の目的や特徴を明示した上で学生の確保・育成・キャリア支援に努め、教職を含む保育者養成を行っている。

なお、本報告書は、本学の教職課程の活動について点検・評価し、それをもとにした改善によって教職課程の内部質保証体制を確立すべく点検結果を公表するために作成されたものである。今回の自己点検・評価は、一般社団法人全国私立大学教職課程協会による「教職課程自己点検評価基準」の評価項目に沿って実施した。

#### IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、令和4年6月に開催された聖徳大学教職課程委員会において、次の手順にて進めることを確認し、作成を行った。

1. 教職課程に関する自己点検・評価の実施方針、実施体制、実施手順等の審議・案の決定  
実施体制、実施手順は3以下の通りとし、年度内（令和5年3月末まで）に、大学学部、大学院、短期大学を含めて「自己点検評価報告書」を作成し、ウェブサイト等で公表する。
2. 実施についての機関決定  
教職課程委員会 令和4年6月
3. 一般社団法人全国私立大学教職課程協会の評価基準に沿って、「チェックシート」を作成
4. 各学科で「チェックシート」に基づいて自己点検・評価の実施 6月下旬～9月上旬
  - ・各レベルの評価項目に対して、根拠となる資料・データを用いて点検し、状況説明、長所・特色、取り組み上の課題を「チェックシート」に記載する。
  - ・「学科レベル」：各学科、研究科において教職課程委員、学科長（研究科長）等が相談して実施
  - ・「授業レベル」：教職課程の授業担当教員による自己点検の実施・報告をし、各学科でまとめる
  - ・「全学レベル」：各学科等からも特色となる事項を抽出しつつ、点検・評価項目については、教職課程委員において担当する
5. 各学科等のチェックシートのとりまとめ・教職課程委員会への提出 9月中旬
6. 教職課程委員会における各学科のチェックシートによる点検内容の精査、検討  
11月下旬まで
7. 報告書原案の執筆 11月下旬まで
8. 教職課程委員会にて内容の報告・審議・公開に向けての報告書案の決定 11月末
9. 機関決定に向けての作業  
企画委員会第2分科会（メタ評価）  
企画委員会  
学部長・学科長会
10. 報告書の確定 1月末
11. ウェブサイト等への公表 3月

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人東京聖徳学園					
大学・学部名 聖徳大学短期大学部					
学科名（必要な場合） 保育科第一部、保育科第二部、総合文化学科、専攻科医療保育専攻、通信教育部保育科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数				通学 205 名 通信 29 名	
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）				通学 188 名 通信 1 名	
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も 1 と数える）				通学 155 名 通信 13 名	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	25	13	3	0	2